

監査委員決算審査報告

8月2日（金）から7日（水）にわたり、平成24年度一般会計決算と特別会計決算・企業会計決算と事業実施状況について審査を行い、その結果、次の意見を付しての報告がありました。

監査委員 加藤木 昭 博
監査委員 阿久津 則 男

- 地方債は、将来的に財政圧迫の要因ともなるので、その縮減については、事業を執行するうえで今後とも特に留意されたい。
- 合併算定替は平成31年度までで、平成27年度以降からは段階的に減額され、大幅な財源不足を生ずることが予想される。また、自主財源の確保が今後の地方自治体運営にとって緊要な課題であり、中長期的な財政計画等により、持続性のある行政運営を図ることが切望される。
- 収入未済額は年々増加してきている。法的な措置を講ずるなど、さらに実効性のある収納対策を図り、滞納の解消、収納率の向上に引き続き努められたい。
- 地方財政にとってはまだまだ厳しい状況が続くことが予想されるので、真の住民サービスとは何かを常に頭に置き、住民が安心して生活できる生活環境を望むものである。

財政比率

	平成24年度	平成23年度	平成22年度
財政力指数	0.38	0.39	0.40
経常収支比率(%)	88.7	88.8	84.7
公債費比率(%)	10.7	11.2	11.6
起債制限比率(%)	10.0	7.1	6.9
地方債現在高	201億1,243万円	205億5,027万円	206億9,406万円

財政力指数……………「1」に近いほどよく、「1」を超えるほど財源に余裕があることを示す。

経常収支比率……………おおむね70%から80%が標準とされる。

公債費比率……………高いほど自由に使える財源がせばまる。おおむね10%程度

起債制限比率……………過去3年平均で20%以上になると起債の許可が一部制限される。

近隣町村との比較

数字で比べてもかなり厳しい!! 今後の財政はどうなる?

決算見込みを的確に把握して、予算編成及び予算補正を適切に行うなど、限られた財源の効率的な運用を図るよう努めることが大事

	財政力指数	経常収支比率(%)	実質公債費比率(%)
城里町	0.377	88.8	15.0
茨城町	0.539	80.4	11.9
大洗町	0.758	93.3	7.6
大子町	0.308	87.3	10.8
常陸大宮市	0.440	86.2	13.3

※「茨城県市町村概況（平成25年度版）」より抜粋

実質公債費比率

率が高いほど財政運営が硬直化していることを示しており、18%以上の団体は地方債の発行に際し許可が必要となり、公債費負担適正化計画を策定し、財政の健全化を図る必要がある。さらに、25%以上の団体は一定の地方債の発行が制限される。

平成24年度特別会計決算

特別会計及び企業会計の決算は以下のとおりです。

会計名		歳入総額	歳出総額	差引額
国保	事業勘定	24億1,577万8千円	23億8,823万5千円	2,754万3千円
	施設勘定	2億4,471万8千円	2億3,937万8千円	534万円
後期高齢者医療		1億8,494万円	1億8,479万2千円	14万8千円
介護	保険事業	17億2,209万9千円	17億2,081万8千円	128万1千円
	サービス事業	408万9千円	408万8千円	1千円
公共下水道事業		12億6,880万7千円	12億2,020万4千円	4,860万3千円
農業集落排水事業		4億3,318万8千円	4億2,734万4千円	584万4千円
水道	収益的収入・支出	6億1,262万6千円	5億5,191万円	6,071万6千円
	資本的収入・支出	2億2,034万8千円	4億4,459万3千円	△2億2,424万5千円